

## ノディングズのケアリング論に関する考察

### - 「教師 生徒」関係の確立に向けて -

立命館大学大学院  
応用人間科学研究科  
対人援助学領域  
人間形成・臨床教育クラスター  
安井 久人

本論文ではケアリングの教育的意義に関して、ネル・ノディングズが主張するケアリングに基づく教育のあり方について考察した。さらにケアリングが学校教育にどのように受け入れられるべきものなののかについて、その課題と可能性を論じた。

第1章では、ノディングズのいうケアリングの基本的概念と特徴を捉え、またケアリング論自体の課題を明らかにした。ケアリングは、ケアする者とケアされる者との間において成立する受容的かつ応答的な相互関係であり、これを維持することを求めるケアリング倫理は、個別的状況における具体的な他者との関係的倫理であると言える。

第2章では、ノディングズがケアリングを中心に学校教育を再構築しようとする試みについて考察した。ノディングズはリベラル・エデュケーションを批判し、私たちがそこから解放されることで、教育の可能性は様々な方向に開かれるだろうと主張した。ケアリングを核に据えた学校教育を実現するためには、ノディングズが唱える「継続性」と、4つの倫理的理想を育む方法を重視し、ケアリング関係を教師と生徒の教育的関係の中心に据えることが求められる。

第3章では、ケアリングの教育における課題について検討した。ケアリング論は人と人の関係に基盤を置いている。学校教育においても教師と生徒の関係が基盤となるため、教育における課題は教育的関係におけるものが多くを占めており、この課題を乗り越えなければ、相互性と連鎖性のなかで生じるケアリング関係を構築できない。教育的関係には上下関係や力関係が入り混じっている。本考察では、教師と生徒が人と人として、ケアする者同士として対等な関係を構築することの困難さや、ケアリングの教育に教育的関係が相応しいのかどうかという疑問を投げかけた。その上でケアリングの教育のために学校教育が今後進んでいくべき道を模索した。

学校をケアリング関係に満ちた教育空間とするには、ケアリングにおける関係性の課題を克服する必要がある。さらにケアリングの観点から、学校の組織編制のあり方や、学校経営のあり方をどう転換すべきか、また社会制度としての学校をどう位置づけ直すべきかなど、なお多くの問題を解明することが課題として残されている。実際これらはいずれも教育学や教育制度を根本から変革しなければいけないほどの重要な問題である。したがって、教育の目的は何か、教師とは何か、人生とは何か、これらの問いに対してつねに議論をしながら実践や政策にかかわり、教育を模索することが私たちの課題である。